

生活場面で実践できる力の実態と課題

— 家族・家庭生活学習との関連 —

吉本 敏子・小川 裕子・星野 洋美・室 雅子
安場 規子・吉岡 良江・吉原 崇恵

The Actual Conditions and Issues of Power that can be Practiced in Life Scene — The Context of the Family and Family Life Learning —

Toshiko YOSHIMOTO, Hiroko OGAWA, Hiromi HOSHINO, Masako MURO,
Noriko YASUBA, Yoshie YOSHIOKA and Takae YOSHIHARA

要 旨

次期学習指導要領の改訂は、能力論を中心に編成されることが見込まれている。そこで、家庭科の今後の方向性を検討するためには、まず家庭科という教科を通して「生きる力」のどのような能力が育成されているのかを明らかにする必要がある。本研究の目的を、①日常の具体的な場面を想定し課題解決ができる力を把握しようとする PISA 型の調査を設計・実施し、知識や技能を活用して課題解決ができる力が身につけているかを把握すること、及び②調査設計の仕方について検討し課題を明らかにすること、とした。

本論文においては、中学生、高校生、大学生を対象に行ったアンケート調査の中から、家族・家庭生活に関わる結果について報告を行った。家族・家庭生活に関する内容では、家庭の仕事の分担の仕方を通して、家庭の仕事の内容と特徴を理解する力、家族の状況を考慮して家庭の仕事の必要性や良さに気づき分担の仕方を考えることができる力、家庭の仕事は家族全員で分担しようとする意識の 3 点を明らかにした。また、調査設計の仕方について検討した結果、設問の表現と回答方法、調査票全体の問の数、調査時間などに改善の余地があると考えられる。

1. はじめに

少子高齢化、貧困と格差の拡大、消費者問題、環境問題など多様な課題が山積する現代社会においては、知識や技能を活用して様々な問題状況に取り組み解決する力が求められている。そして OECD の「キー・コンピテンシー」や PISA 調査¹⁾、国立教育政策研究所の「21 世紀型能力」の枠組みの試案²⁾、2014 年 3 月に文部科学省が示した論点整理³⁾などにみられるように、社会の変化に対応できる資質や能力いわゆる「生きる力」の育成とそのための教育のあり方が問われている。

このような状況の中で、家庭科教育の今後の方向性を検討するためには、まず家庭科という教科を通して「生きる力」のどのような能力が育成されているのかを明らかにする必要がある。そこで本研究では次の

2 点を研究の目的とした。一つ目は、日常の具体的な場面を想定し課題解決ができる力を把握しようとする PISA 型の調査を設計・実施し、知識や技能を活用して課題解決ができる力が身につけているかを把握することである。二つ目は、これまではあまり行われていない本研究のような能力を把握する調査が今後ますます必要とされると考えられることから、調査設計の仕方について検討し課題を明らかにすることである。

本研究に関しては、すでに「消費生活・環境」に関する調査結果について報告をしている⁴⁾。ここでは、家族・家庭生活に関する調査結果について報告をする。

2. 調査の概要

(1) 調査の方法

①調査時期：2013 年 3 月～10 月

- ②調査対象者：愛知県、静岡県、三重県の中学校1年生 298名（男 139名、女 156名、不明3名）、高等学校1年生 456名（男 156名、女 300名）、大学1年生 567名（男 249名、女 317名、不明1名）。中学校1年生の中には2013年3月に小学校6年生を対象に調査したもの（男54名、女56名、計110名）、及び高等学校1年生には2013年3月に中学校3年生を対象に調査したもの（男71名、女70名、計141名）が含まれている。
- ③調査方法：質問紙による集合調査、調査時間 40分
- ④回収率：100%
- ⑤分析対象者：家族・家庭生活に関する問（問5）は、無回答の者を除いて分析の対象とした。分析の対象としたデータは以下の通りである。
- 中学校1年生 292名（男134、女155、不明3）、有効回答率 98.0%
- 高等学校1年生 423名（男147、女276）、有効回答率 92.8%
- 大学生1年生 559名（男247、女311、不明1）、有効回答率 98.6%
- ⑥分析方法：回答の記述内容を読み取りデータベースを作成し、エクセル統計により集計及び有意差検定（ χ^2 検定）を行った。

(2) 調査の設計

調査内容及その構成は以下の通りである。まず初めに、中学校2年生の生徒の家庭生活の様子を書いた新聞の投書記事を読み、次に5つの問とフェイスシートに回答するという構成になっている。

①新聞の投書記事

②家庭生活に関する5つの問

- 問1（消費生活・環境）：インターネットを利用して靴を買う
- 問2（食生活）：献立を立てて食事をつくる
- 問3（衣生活）：洗濯をする
- 問4（住生活）：住まいの事故について考える
- 問5（家族・家庭生活）：家庭の仕事と役割について考える

③フェイスシート

- a 住生活において大切にしていること（3つ選択）
- b 幼児との生活経験
- c 祖父母との生活経験
- d 家庭科の調理実習の家での経験
- e 洗濯機の使用経験
- f インターネットを利用した商品の購入経験
- g 高等学校の家庭科の履修科目
- h 履修学年、時間
- i 出身高校の所在地

j 学年

k 性別

この中でg~iは大学生調査のみの項目である。

*まず新聞の投書を読みましょう。

あなたは次のような新聞の投書を見つけました。

私の家は、祖父・祖母・父・母・弟そして私の6人家族です。先日祖母が家の中で転んで腰を打ってしまいました。父と母が会社に行き、私も学校に行った後の出来事だったので、一つ間違えば大ごとでした。そういえばよく祖母は「この家は年寄りには住みにくいねえ」と言っていました。もっと早く直しておけばよかったです。

そして祖母がけがをして、今まで祖母がどれほど私たちのために働いてくれたのかに、初めて気がつきました。毎日のご飯やお洗濯、弟の保育園のお迎えや遊び相手...本当に毎日毎日いっぱいやってくれてたんだなあ。

祖母に感謝すると共に、祖母が回復するまでの期間だけでなく、これからはもっと家の仕事を家族みんなで分担していきたいと思います。おばあちゃん、ありがとうございます。早く元気になってね。

(中2 みつき)

図1 新聞の投書記事

(3) 家族・家庭生活の問

家族・家庭生活に関する問（問5）では、これまでの家庭の仕事の役割分担表を見直し、新しい役割分担表を作成するという設問にした。問は以下の通りである。

問5 みつきさんは、家庭の仕事とそれぞれの役割について考えてみました。

みつきさんの家庭では、これまで家庭の仕事と役割分担を以下のようにおこなってきました。祖母がけがをしたことをきっかけに、今までの役割分担を見直すことになりました。

- (1) 祖母が回復した後の新しい役割分担表を作成してください。それぞれが担当する家庭の仕事はA~Sまでの記号で入れ、合計点を計算し、そのような組み合わせにした理由を書いてください。なお、表中の()内の点数は、仕事の負担の大小を表しています。(1は負担が小さく、5は負担が大きいことを表しています。)

祖父	A庭の手入れ(2点)
祖母	B買い物(5点) C食事づくり(5点) Dごみ出し(2点) E洗たく(5点)
父	F1階のそうじ(5点) G風呂そうじ(2点) Hトイレそうじ(3点)
母	I弟の保育園への送り迎え(5点) J弟の遊び相手(2点) K犬のえさやり(1点)
みつき	L犬の散歩(3点) M食器洗い(4点) Nふとん干し(3点) O洗たく物をたたむ(3点)
	P2階のそうじ(4点) Q弟の世話(4点) R金銭管理(5点)
	S新聞とり(1点)

	担当する家庭の仕事 (A~Sまでの記号を記入)	合計点	その理由
祖父			
祖母			
父			
母			
みつき			

- (2) なぜ、このような役割分担表にしたのですか？

図2 家族・家庭生活に関する問

3. 本研究の分析枠組みと調査から読み取ることのできる力

本調査は、図3のように、国立教育政策研究所が示した21世紀型能力を参考にしながら、調査から読み取る力として科学性と生活合理性を位置づけた。「科学性（知識・技能の応用力）」は、問題解決のために知識や技能を総合して活用できる力、「生活合理性（状況把握、姿勢や態度、価値）」は、家族構成や生活資源等の状況に応じた判断ができる力であり、姿勢や態度、価値観の形成を含むものとした。

そして本研究の分析枠組みに基づき、家族・家庭生活に関する問（問5）から読み取ることができ力を、以下の3点とした。

①科学性

家庭の仕事の内容と特徴を理解することができる力

②科学性・生活合理性

家族の状況を考慮して、家庭の仕事の必要性や良さに気付き分担の仕方を考えることができる力

③生活合理性

家庭の仕事は家族全員で分担しようとする意識

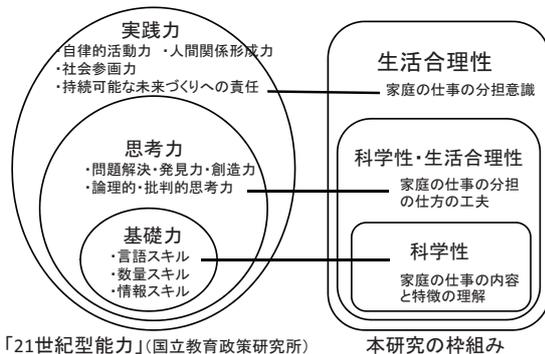


図3「21世紀型能力」と本研究の枠組み

4. 学習指導要領にみる家庭の仕事の学習

小・中・高等学校の学習指導要領において、家庭の仕事に関する内容がどのように扱われているかをみる。小学校学習指導要領「生活」⁵⁾では、「(2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」が示されており、家計を支える仕事、家事に関する仕事、家庭生活の中での役割などを取り上げ、自分のことは自分でする、手伝いをする、家族が喜ぶことを見付けるなど、考えるだけでなく実際に行うことが大切であるとしている。

小学校学習指導要領「家庭」⁶⁾では、「A 家庭生活と

家族 (2) ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること。イ 生活時間の有効な使い方を工夫し、家族に協力すること。」が示されている。ここでは「家庭には衣食住や家族に関する仕事があり、自分や家族の生活を支えていることが分かるとともに、家族の一員として仕事を分担する必要性に気付き、自分の分担する仕事が工夫してできるようにする」ことや、「自分の生活時間を見直し、家族と共に過ごす時間や家族の生活に協力する時間を生み出すなど生活時間の有効な使い方を工夫して、家族の一員として協力することができるようにする」ことをねらいとしている。家庭の仕事を理解し実践につなげるとともに、生活時間と関連付けて学ぶようになっている。

中学校学習指導要領「技術・家庭」⁷⁾においては、「A 家族・家庭と子どもの成長 (2) ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。」が示されている。ここでは「家庭や家族の機能として、子どもを育てる機能や心の安らぎなどの精神的な機能など、基本的な機能を取り上げ、それらは衣食住などの生活の営みに支えられていることを知り、家庭や家族の重要性を理解できるようにする」ことをねらいとしており、家庭の機能の観点から家庭の仕事について学ぶようになっている。また「(3) ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。」においては、「家族には幼児にふさわしい生活を整える役割があることを考えさせるようにする」ことが記されている。

高等学校学習指導要領「家庭基礎」⁸⁾においては、「(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 ア 青年期の自立と家族・家庭 …男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えさせる…」、「イ 子どもの発達と保育 …子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識させる。」「ウ 高齢期の生活 …高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させる。」「エ 共生社会と福祉 …家庭や地域及び社会の一員としての自覚を持って共に支え合って生活することの重要性について認識させる。」が示されている。高等学校の学習では、男女の協力や共生社会、子どもや高齢者に対して家族及び地域や社会の果たす役割など、より広い視野から家庭の仕事に対する考え方や価値観を学ぶ内容になっている。（「家庭総合」「生活デザイン」については省略）

以上のように、「家庭の仕事」に関する学習内容を見ると、小学校1・2年生を対象とする「生活」にお

表1 みつきが分担する家庭の仕事

	点数	分担状況 (%)		
		中学生	高校生	大学生
B 買い物	5	10.3	8.5	10.8
C 食事づくり	5	2.7	1.2	1.8
E 洗たく	5	8.2	11.8	11.4
F 1階のそうじ	5	13.4	11.6	12.2
I 弟の保育園への送り迎え	5	6.2	5.0	6.1
R 金銭管理	5	2.4	2.6	1.3
M 食器洗い	4	15.8	17.7	22.2
P 2階のそうじ	4	13.7	21.0	21.5
Q 弟の世話	4	49.0	36.4	40.4
H トイレそうじ	3	25.0	31.2	29.7
L 犬の散歩	3	27.4	21.3	13.1
N ふとん干し	3	9.2	8.5	4.8
O 洗たく物をたたむ	3	31.2	30.5	36.1
A 庭の手入れ	2	1.0	1.2	0.0
D ごみ出し	2	24.0	15.1	19.1
G 風呂そうじ	2	33.2	45.4	49.6
J 弟の遊び相手	2	43.5	38.3	38.1
K 犬のえさやり	1	24.7	27.9	25.0
S 新聞とり	1	47.6	52.5	65.3

いては、家庭の仕事の種類を知り、その中で自分ができる仕事(手伝い)を考え実践するという内容である。小学校5・6年生を対象とする「家庭」では、家庭の仕事の内容や分担の必要性を理解し、また生活時間と関連付けて考える内容になっている。中学校では、家庭や家族の基本的な機能の観点から家庭の仕事を考えたり、子どもが育つ環境としての家族の役割として家庭の仕事を考えたりする。高等学校では、男女が協力して家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことなどジェンダーの視点や、共生社会の視点など広い視野で家庭の仕事を考える内容になっている。

5. 調査結果及び考察

(1) 科学性

ここでは家庭の仕事の内容や頻度、継続性、時間、労力、技能・技術、難易度などの家庭の仕事の特徴を理解する力があるかを読み取る。今回の調査では、各仕事の負担の大きさを先に点数化して示している。そこで今回はこれらの仕事の中から「食事づくり」「弟の世話」「金銭管理」に注目し、中学2年生のみつきが分担することが可能と考えているか否かによって、家庭の仕事の内容と特徴を理解しているかを判断することにした。

① みつきが分担する家庭の仕事

表1は、家庭の仕事ごとにみつきが一人で分担すると回答した者の割合を示している。「食事づくり」と「金銭管理」は仕事の負担度の大きい5点、「弟の世話」の負担度は4点である。まず「食事づくり」の分担を見ると、中学生、高校生、大学生の順に2.7%、1.2%、1.8%、「金銭管理」の分担では同様に2.4%、2.6%、1.3%であり、みつきが一人で食事作りや金銭管理を担当すると回答した者は少なく、また中学生、高校生、大学生の間に有意差はみられ

なかった。このことから「食事づくり」と「金銭管理」については、何れの学校段階においてもこれらの仕事の内容や特徴がほぼ理解できているものと考えられる。

「弟の世話」の分担では、中学生、高校生、大学生の順に49.0%、36.4%、40.4%であり学校段階別に有意差がみられた($p<0.01$)。中では中学生が最も大きな値を示していたが、いずれの学校段階においても、みつきが担当すると回答した者の割合が家族の中では最も多い結果であった。今回の調査では幼児に関して「弟の保育園への送り迎え」(負担度5点)、「弟の遊び相手」(負担度2点)は家庭の仕事として別に示している。それでは回答者は、この2つの項目を除いた「弟の世話」とはどのような仕事をするかと考えているのだろうか。「弟の世話」には、食事、着替え、入浴、睡眠、洗面、排泄など多くの内容が含まれている。これらを勧告したとき、中学生のみつきが一人で担当することは難しいと考えられ、中学生、高校生、大学生のいずれも「弟の世話」の内容や特徴を充分理解できていないものと推察される。

② 幼児との生活経験と幼児の世話

表2は、回答者の幼児との生活経験の有無とみつきが幼児の世話をすると回答した者の割合を示している。幼児との生活経験がある者は中学生、高校生、大学生ともに4割程度であった。「生活経験ありの者のうちみつきが分担と回答」は、学校段階別に有意差がみられ($p<0.05$)、中学生が最も多くみつきが分担すると回答していた。「生活経験なしの者のうちみつきが分担と回答」も同様に中学生が最も多くみつきが分担すると回答していたが、学校段階別に有意差はみられなかった。また、「弟の世話」をみつきが分担すると回答した者を幼児との生活経験の有無別に比較した結果、有意差はみられなかった。

表2 「幼児との生活経験」と「弟の世話」 (%)

	幼児との生活経験ありの者	弟の世話をみつきが分担と回答(全体)**	生活経験ありの者のうちみつきが分担と回答*	生活経験なしの者のうちみつきが分担と回答
中学生	41.1	49.0	50.8	47.6
高校生	38.5	36.4	36.8	36.2
大学生	38.8	40.4	38.2	42.0

* p < 0.05 ** p < 0.01

以上のことより、家庭の仕事の内容や特徴を理解することができる力については、家庭の仕事の種類によっては生活経験の有無にかかわらず内容や特徴が十分理解できていないものがあること、また学校段階が進むにつれて家庭の仕事の理解が深まっているとも言え難いことが明らかになった。

(2) 科学性・生活合理性

ここでは家族の年齢や置かれた状況、健康状態、生活行動、家事労働の技能や労力等を考慮して家庭の仕事の分担を工夫する必要性と方法を考えることができる力がついているかを読み取る。そこでまず、けがをした祖母への配慮がどのようになされているかをみる。次に仕事の負担度、担当する仕事の種類、担当する仕事の難易度から総合的に家族の分担の仕方を判断する。さらに仕事の分担の仕方の理由を分析することによって、仕事の分担に対する考え方や分担の工夫を読み取る。

① 祖母のけがへの配慮

祖母はこれまで「買い物」から「犬のえさやり」まで10種類、負担度35点(家全体の仕事の種類19種類、負担度64点)の家事を分担し、家庭の仕事を中心になって支えてきた。この分担の仕方を祖

表3 家庭の仕事の担当者(中学生)

	点数	今までの担当者	最も多く分担					2番目に多く分担		複数
			1 祖父	2 祖母	3 父	4 母	5 みつき	(%)		
A 庭の手入れ	2	祖父	82.5	8.2	4.1	1.0	1.0	1.6		
B 買い物	5	祖母	1.4	23.3	8.9	50.3	10.3	3.4		
C 食事づくり	5	祖母	0.7	30.8	1.7	56.8	2.7	6.1		
D ごみ出し	2	祖母	27.1	10.6	30.1	2.7	24.0	2.8		
E 洗たく	5	祖母	3.8	30.5	14.0	36.0	8.2	1.9		
F 1階のそうじ	5	祖母	11.3	18.2	25.0	26.0	13.4	0.9		
G 風呂そうじ	2	祖母	18.8	12.0	24.0	6.8	33.2	2.3		
H トイレそうじ	3	祖母	16.8	18.8	22.9	12.3	25.0	0.3		
I 弟の保育園への送り迎え	5	祖母	16.8	14.0	33.2	24.0	6.2	1.0		
J 弟の遊び相手	2	祖母	25.0	17.1	8.9	1.0	43.5	0.9		
K 犬のえさやり	1	祖母	24.3	25.7	17.8	2.7	24.7	1.9		
L 犬の散歩	3	父	14.7	5.1	46.9	1.0	27.4	3.1		
M 食器洗い	4	母	1.4	13.0	9.6	52.7	15.8	3.4		
N ふとん干し	3	母	6.2	11.0	24.0	45.5	9.2	1.5		
O 洗たく物をたたむ	3	母	5.8	24.3	6.8	25.3	31.2	2.6		
P 2階のそうじ	4	母	10.3	10.3	25.3	31.5	13.7	2.6		
Q 弟の世話	4	母	10.6	8.9	7.2	19.2	49.0	3.0		
R 金銭管理	5	母	3.4	4.5	29.5	54.5	2.4	1.6		
S 新聞取り	1	みつき	21.2	13.7	11.0	0.7	47.6	1.3		

表4 家庭の仕事の担当者(高校生)

	点数	今までの担当者	最も多く分担					2番目に多く分担		複数
			1 祖父	2 祖母	3 父	4 母	5 みつき	(%)		
A 庭の手入れ	2	祖父	88.4	3.5	2.6	0.7	1.2	1.3		
B 買い物	5	祖母	2.6	23.4	4.0	44.7	8.5	12.3		
C 食事づくり	5	祖母	0.9	35.9	0.5	43.0	1.2	14.4		
D ごみ出し	2	祖母	16.5	4.7	52.0	3.1	15.1	4.9		
E 洗たく	5	祖母	2.8	30.5	5.9	33.3	11.8	7.9		
F 1階のそうじ	5	祖母	8.7	27.9	15.6	20.3	11.6	8.0		
G 風呂そうじ	2	祖母	8.7	11.6	22.7	4.3	45.4	2.5		
H トイレそうじ	3	祖母	11.8	18.2	22.5	8.7	31.2	1.3		
I 弟の保育園への送り迎え	5	祖母	23.2	22.2	20.1	16.5	5.0	6.9		
J 弟の遊び相手	2	祖母	19.6	21.0	6.4	1.2	38.3	7.5		
K 犬のえさやり	1	祖母	27.9	17.5	18.2	1.4	27.9	1.9		
L 犬の散歩	3	父	13.5	0.9	53.4	1.4	21.3	4.2		
M 食器洗い	4	母	0.5	8.5	11.6	47.5	17.7	7.1		
N ふとん干し	3	母	0.9	6.4	19.4	54.6	8.5	3.6		
O 洗たく物をたたむ	3	母	3.3	22.2	6.9	23.4	30.5	6.2		
P 2階のそうじ	4	母	4.7	6.6	13.7	37.1	21.0	5.7		
Q 弟の世話	4	母	7.1	6.9	8.5	24.6	36.4	9.3		
R 金銭管理	5	母	1.7	3.1	17.3	63.1	2.6	4.5		
S 新聞取り	1	みつき	21.0	7.6	10.6	1.7	52.5	1.4		

表5 家庭の仕事の担当者（大学生）

	点数	今までの担当者	最も多く分担					2番目に多く分担		複数
			1 祖父	2 祖母	3 父	4 母	5 みつき	(%)		
A 庭の手入れ	2	祖父	97.5	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
B 買い物	5	祖母	1.8	33.6	5.0	44.2	10.8	1.4		
C 食事づくり	5	祖母	0.4	53.5	1.3	38.3	1.8	2.5		
D ごみ出し	2	祖母	13.2	4.5	57.6	2.0	19.1	1.8		
E 洗たく	5	祖母	3.6	29.2	7.5	41.0	11.4	1.8		
F 1階のそうじ	5	祖母	13.1	37.6	14.3	18.8	12.2	1.8		
G 風呂そうじ	2	祖母	8.1	9.3	24.0	3.8	49.6	2.3		
H トイレそうじ	3	祖母	12.7	18.2	27.9	7.3	29.7	1.2		
I 弟の保育園への送り迎え	5	祖母	32.9	26.3	15.6	15.7	6.1	1.9		
J 弟の遊び相手	2	祖母	27.7	24.2	3.6	0.7	38.1	2.5		
K 犬のえさやり	1	祖母	29.0	17.4	22.5	0.7	25.0	2.2		
L 犬の散歩	3	父	9.5	2.1	71.9	1.4	13.1	1.0		
M 食器洗い	4	母	0.7	9.1	10.0	55.5	22.2	1.3		
N ふとん干し	3	母	1.8	1.8	23.4	65.5	4.8	1.8		
O 洗たく物をたたむ	3	母	5.2	18.4	5.5	32.0	36.1	1.4		
P 2階のそうじ	4	母	2.3	3.2	13.4	55.5	21.5	1.1		
Q 弟の世話	4	母	5.2	7.3	8.9	34.0	40.4	2.3		
R 金銭管理	5	母	0.4	2.0	8.4	85.7	1.3	0.4		
S 新聞とり	1	みつき	12.5	5.9	5.9	1.4	65.3	1.5		

母のけがをきっかけに見直すことにし、新しく作成した分担表から祖母への配慮がどのようになされているかを読み取ることにした。表3、表4、表5は各学校段階の結果を示している。

これまで祖母が担当していた10種類の家庭の仕事を今後は誰が担当するかをみると、中学生（表3）では、祖母が担当すると回答した割合が最も多かった仕事は「犬のえさやり」、祖母が担当すると回答した割合が家族の中で2番目に多かった仕事は「買い物」「食事づくり」「洗たく」の3つで、他の項目は母など他の家族が主な担当者となっている。「ごみ出し」と「弟の保育園への送り迎え」は父、「買い物」「食事づくり」「洗たく」「1階のそうじ」は母、「風呂そうじ」「トイレそうじ」「弟の遊び相手」はみつきが主な担当者となり、祖母からそれぞれの家族へと主な担当者が変わっている。

同様に高校生（表4）では、祖母が担当すると回答した割合が最も多かった仕事は「1階のそうじ」、祖母の分担が家族の中で2番目に多かった仕事は「買い物」「食事づくり」「洗たく」「弟の保育園への送り迎え」「弟の遊び相手」の5つで、他の項目は母など他の家族が主な担当者となっている。「弟の保育園への送り迎え」「犬のえさやり」は祖父、「ごみ出し」は父、「買い物」「食事づくり」「洗たく」は母、「風呂そうじ」「トイレそうじ」「弟の遊び相手」「犬のえさやり」はみつきが主な担当者となり、祖母からそれぞれの家族へと主な担当者が変わっている。

大学生（表5）では、祖母が担当すると回答した割合が最も多かった仕事は「食事づくり」「1階のそうじ」、祖母の分担が2番目に多かった仕事は「買い物」「洗たく」「弟の保育園への送り迎え」の3つで、他の項目は母など他の家族が主な担当者となっ

ている。「弟の保育園への送り迎え」「犬のえさやり」は祖父、「ごみ出し」は父、「買い物」「洗たく」は母、「風呂そうじ」「トイレそうじ」「弟の遊び相手」はみつきが主な担当者となり、祖母からそれぞれの家族へと主な担当者が変わっている。

中学生、高校生、大学生の結果を見ると、祖母の分担の軽重はあるものの、祖母が担当していた家庭の仕事を、家族全員で分担しようとしていることがわかる。

②仕事の負担度・種類・難易度

図4は仕事の負担度、担当する仕事の種類、担当する仕事の難易度を示している。仕事の「負担度」は家族それぞれが担当する仕事の総得点の平均を表し、「種類」は担当する仕事の種類（数）の平均を表している。「難易度」は「負担度」を「種類」で除した値であり、5点に近いほど負担度が大きい仕事を担当することを示している。ここでは一つ一つの仕事の負担度の平均を総得点の平均と区別するために「難易度」とした。

仕事の負担度を見ると、中学生、高校生、大学生ともに母の負担度が突出して大きく、家庭の仕事の総得点64点と比べると、母は家庭の仕事の約3分の1を担当することになることがわかる。祖母の負担度は、高校生と大学生においては母に次いで大きい、父やみつきと大差はなく、これまでの仕事の負担（35点）が軽減されていることがわかる。祖父は、各学校段階において家族の中では最も負担度が小さい。

仕事の種類は、いずれの学校段階においても母が最も多く、次いでみつき、父、祖母、祖父の順であったが、家族全員の担当数に大差はなく一人当たり3種類から5種類程度になっている。

仕事の難易度を見ると、母が最も値が大きく、次

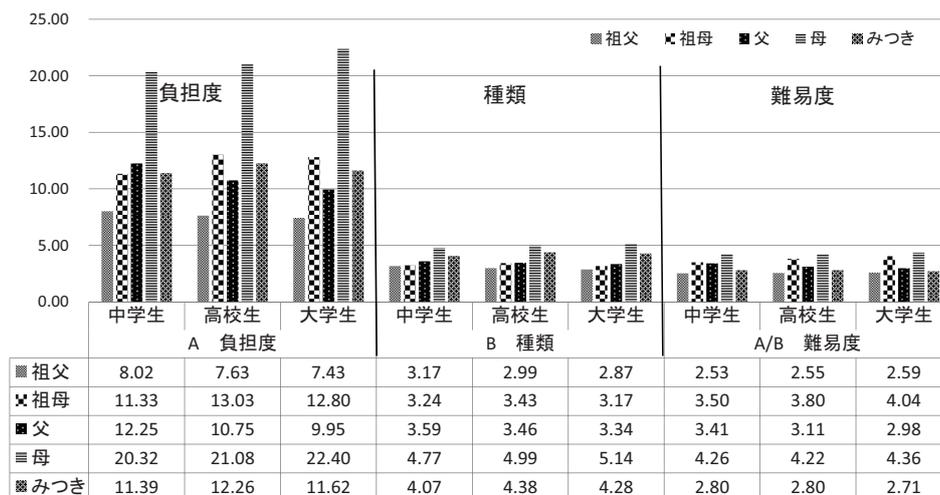


図4 家庭の仕事の負担度・種類・難易度

いで祖母、父、みつき、祖父の順で、母や祖母は難しい仕事を、父、みつき、祖父は比較的簡単な仕事を分担していることがわかる。いずれの学校段階でも仕事の難易度の順位は同じ結果であった。

この結果を総合的にみると、家族の中では母親が最も難易度の高い仕事を最も多くの種類担当し、結果として仕事の負担度が最も大きくなっている。逆に祖父は最も難易度の低い仕事を最も少ない種類分担しており、負担度は最も小さい。祖母は仕事の種類は少ないが比較的難易度の高い仕事を分担しているため、仕事の負担度はやや大きい。みつきは仕事の種類は母に次いで多いが、祖父に次いで難易度の低い仕事を分担しているため仕事の負担度はさほど大きくない。父は家族の中では仕事の種類や難易度が共に中程度であり、仕事の負担度も家族の中では中くらいである。仕事の負担度・種類・難易度から見ると、母親の負担が大きく、仕事をしている母親の状況に十分配慮できているとは言い難い。

③仕事の分担の仕方の理由

仕事の分担の仕方の主な理由は以下の通りであった。祖父母への配慮に関する記述が最も多く見られ、家庭の仕事は家族全員で分担すべきという意見と共に、家事は母・女性が担当すべきという意見がみられた。また中学2年生のみつきは若くて元気で力がある、中学生として当たり前、手伝いは大切、授業でやったことを活かすなどの理由から分担した方がよいとする積極的な意見も読み取ることができた。

<分担の仕方の理由>

- 祖父母の仕事を経減する。けがをすると危ないから。
- 父母やみつきは元気、力がある、余力がある。大変な仕事は父母とみつきがする。若い人が頑張る。
- 父：仕事がある。仕事が忙しい。仕事で疲れてい

る。出勤のついでにできる家事をする。力の必要な仕事をする。家族の大黒柱。家事もしっかりすべき。

- 母：家事をしなければならない。重要な仕事をする。主婦なので家事をたくさんする。家事が仕事。時間がありそう。母として当たり前。今まで楽をしていた。家事が得意。なんでもできる。家事の中心となる人。祖母の代わりに頑張る。いちばん家のことをわかっている。仕事が忙しい。
- みつき：家族に世話になっているから。お姉ちゃんだから。若くて元気。子どもでもできる。今まで分担が少なすぎた。中学生として当たり前。簡単にできそう。できないところをフォローする。授業でやったことを活かす。手伝いは大切。
- 家族皆で頑張る。家事はみんなでしなければならない。家族全員が楽に生活できるようにする。仕事の差を解消し同じくらいの量を分担する。父母は平等にする。祖父母は平等にする。一人につき4個の仕事を割り当てた。
- 家事は女性がやったほうが良い。母と祖母は家事の中心。
- 自分の家と同じようにした。それぞれができそうなことをする。一人一人の毎日の生活に合わせた。疲れや体の事を考えた。年齢を考えた。

(3) 生活合理性

ここでは家庭の仕事は家族全員で分担しようとする意識を読みとる。そこで家庭の仕事の分担におけるジェンダー意識をみる。まず仕事の負担度を基に、祖父母及び父母の負担度を比較する。祖母-祖父、母-父の負担度の得点差を計算し、差が大きいほどジェンダー意識が大きいとみる。またジェンダー意識をカテゴリーに分け、調査対象者のジェンダーに関する意識の傾向

を把握する。

①祖父母と父母の仕事の負担度の比較

図5は祖父母と父母の分担の得点差を箱ひげ図に表わしたものである。祖父母の得点差の平均値は、中学生、高校生、大学生の順に3.31、5.57、5.26で

あり、父母の得点差の平均値は同様に8.00、10.40、11.94であった。祖父母の得点差に比べ父母の得点差の方が大きい、これには祖母のけがや高齢者への配慮の意識が反映されているものと考えられる。しかし、いずれにしても祖父よりも祖母、父よりも

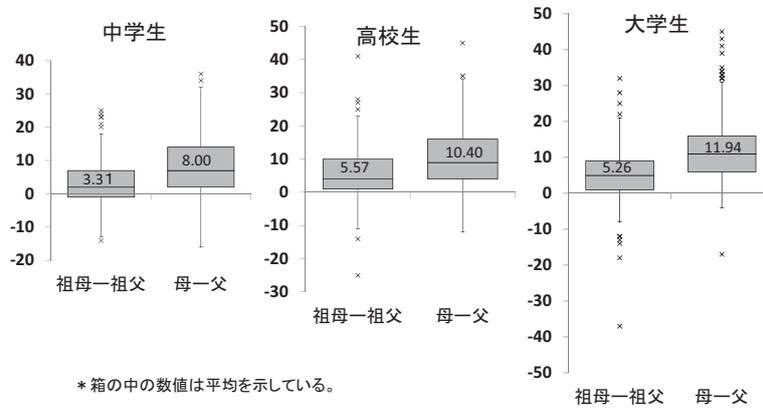


図5 ジェンダー意識（祖父母・父母の分担の差）

	祖母-祖父					総計	(人)	ジェンダー意識
	母-父	-14~-5	-4~-5	6~15	16~25			
中学生	-24~-15			1		1		
	-14~-5	2	8	4	1	15		
	-4~-5	7	76	16	1	100		
	6~15	8	69	41	3	121		
	16~25	2	20	19	6	47		
	26~36		5	3		8		
総計		19	179	83	11	292		

	祖母-祖父							総計	(人)
	母-父	-34~-25	-14~-5	-4~-5	6~15	16~25	26~35		
高校生	-14~-5			1	4	1			6
	-4~-5			4	89	31	1		125
	6~15	1		8	88	65	15		177
	16~25				32	43	19	2	97
	26~35				13	3	1		17
	36~45				1				1
総計		1	13	227	143	36	2	1	423

	祖母-祖父							総計	(人)
	母-父	-44~-35	-24~-15	-14~-5	-4~-5	6~15	16~25		
大学生	-24~-15			1					1
	-4~-5				5	88	25	3	121
	6~15				9	138	127	7	282
	16~25	1			4	40	60	16	122
	26~35					11	16	2	29
	36~45					3	1		4
総計		1	1	18	280	229	28	2	559

図6 ジェンダー意識（カテゴリー分類）の分布

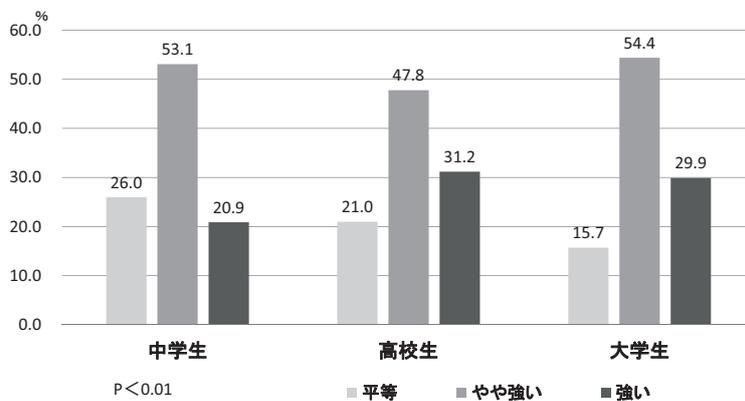


図7 ジェンダー意識（カテゴリー分類）

母の方が仕事の負担度が大きく、いわゆる家事は女性が主に分担すべきという意識がうかがえる。

②ジェンダー意識のカテゴリー分類

祖母－祖父、母－父の得点差をクロス集計し、ジェンダー意識の強さをカテゴリーに分類する。図6は縦軸を父母の得点差、横軸を祖父母の得点差としてクロス集計をして一覧表に示したものである。ここでは得点差を10点ごとにグループ化している。そして縦軸と横軸共に-4～5に分類されたものをジェンダー意識が「平等」、-14～15に分類されたもの（「平等」を除く）をジェンダー意識が「やや強い」、「平等」「やや強い」を除くそれ以外のものをジェンダー意識が「強い」とした。

人数を考慮して図6をみると、「平等」や「やや平等」は図表の左上に位置し、右側や下方に「強い」が固まっている。これは祖母や母といった女性に家庭の仕事が偏っていることを示しており、ここから家庭の仕事を中心に女性が担当するというジェンダー意識を読み取ることができる。

この結果を人数の割合で示したのが図7である。今回のカテゴリーの分類方法では「やや強い」がほぼ半数を占め、中学生、高校生、大学生の順に「平等」は減少し、「強い」は中学生で2割、高校生と大学生で3割程度であり、家庭の仕事が家族全員で分担しようとする「平等」意識は中学生が最も強く、また総じて大学生の方がジェンダー意識が強いことがわかった。ジェンダー意識には、学校段階別に有意差がみられた ($p<0.01$)。

6. 結論

本研究の目的の一つは、調査によって日常の具体的な生活場面の課題解決の方法を把握し、課題解決ができる力の実態を明らかにすることであった。家族・家庭生活に関する内容では、家庭の仕事の分担の仕方を通して、家庭の仕事の内容と特徴を理解する力（科学性）、家族の状況を考慮して、家庭の仕事の分担の必要性や良さに気付き分担の仕方を考えることができる力（科学性・生活合理性）、家庭の仕事は家族全員で分担しようとする意識（生活合理性）を明らかにしようとした。

その結果、家庭の仕事の理解はある程度できていると考えられるが、仕事によっては理解が十分とは言えないものがあることや、年齢と共に家庭の仕事の理解が深まっているとは言い難いことから、家庭の仕事の内容と特徴を理解する力は十分でないと考えられる。また、けがをした祖母に対する配慮は見られるが、共働きをしている母の負担度が非常に大きく、家族の状

況を考慮した分担のバランスが良いとは言えず、家族の状況を考慮して家庭の分担の仕方を工夫することができる力も十分ではないと考えられる。さらに女性が家庭の仕事も多く負担する結果であり、ジェンダー意識は比較的強く、また中学生に比べて大学生の方が家庭の仕事は家族全員で分担しようとする意識が低いことが分かった。

学習指導要領に示されている家庭の仕事の学習内容と照らし合わせてみると、今回の結果から、発達段階に応じた家庭の仕事の理解と、幼児や高齢者に配慮しつつ、家族（男女）が協力して家族の一員としての役割を果たしていくという意識が十分身につけているとは言い難い。21世紀型能力に示されている未来をつくる実践力を育てるためには、発達段階に応じて、家庭の仕事の科学的な理解をベースに、生活時間や家族の生活行動との関わりから、また男女共同参画やジェンダーの視点から家庭の仕事の分担を考えることができるような授業の工夫が必要であると考えられる。

本研究の目的の二つ目は、調査設計の仕方について検討し課題を明らかにすることであった。今回の家族・家庭生活の調査では、家庭の仕事の点数化することによって、家庭の仕事の分担の仕方を数量的・客観的に見ることができた点は良かったと考える。しかし一方で、仕事の内容や特徴の理解の程度を把握するためにはどのように回答を求めたらよいか、回答方法を検討することも必要であることがわかった。また仕事の分担の合計点の記入では誤記入が多くみられたことから記入方法の検討や、家族の状況の明確な提示をする、みつきの性別を記入させる、弟の仕事の分担欄を設けるなどの点についても検討の余地があると考えられる。家族・家庭生活は問の5番目で、回答は問のどの順番からでも良いと伝えたにもかかわらず無回答が多く見られたことから、調査票全体の問の数や調査内容、調査時間などの改善の検討の必要もある。

最後に、本調査の設計段階では林末和子先生（三重大学）にもご参加いただいたことを申し添え、この場をお借りしてお礼申し上げます。

注

- 1) 荒井紀子『『学力論』と家庭科教育—世界標準の学力論からみえる家庭科教育の可能性と課題』、日本家政学会誌 Vol.65 No.1、2014年、37～44
- 2) 研究代表者 勝野頼彦（国立教育政策研究所教育課程研究センター長）、教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書5「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」2013年3月
- 3) 文部科学省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理—」2014

年3月

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/index.htm

- 4) 吉本敏子・小川裕子・星野洋美・室雅子・安場規子・吉岡良江・吉原崇恵、「生活場面で実践できる力の実態と課題—消費生活・環境学習との関連—」、三重大学教育学部研究紀要 第66号(教育科学)、2015年、227～233
- 5) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」平成20年8月、25～27
- 6) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 家庭編」平成20年8月、19～22
- 7) 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」平成20年9月、44～46
- 8) 文部科学省「高等学校学習指導要領」平成21年3月告示、117～118